

自然の変化に 対応できる人を育てる YMCAキャンプ

武藤 興紀

Muto Kouki

医療法人仁和会

熊本眼科医院 理事長

熊本YMCA 功労常議員

熊本YMCA 阿蘇運営委員



▼YMCAキャンプとの出会い

熊本大学医学部の学生として学んでいる頃、ある先生に声をかけていただき、熊本YMCAの阿蘇キャンプにて、キャンプドクターの補助として関わりをもつようになりました。当時は、体が弱かったこともあり、キャンパーたちを見守っていました。その後も、キャンプの時には声をかけていただき、ことあるごとに、熊本YMCA阿蘇キャンプ場で子どもたちを見守っていました。

▼Y M C A キャンプとの出会い

その後も、キャンプドクターがきっかけとなり、Y M C A で英会話を学んだりしながら、Y M C A との関わりを持つようになりました。その後、結婚し、子どもができてからは、子どもたちを Y M C A キャンプに預けることが多くなりました。

熊本といえども、街の中には、自然が少なく、子どもたちを自然の中で思いっきり遊ばせておくことは大切だと思っていました。Y M C A に行けば、のんびりでき、雑音のしない場所で自然に浸ることができる。その環境が大切だと感じる事ができたのが、Y M C A キャンプ活動の原点となりました。

その後も、阿蘇キャンプに関わり、この自然環境を守るために、貯水池へと進む流れを変更し、水の流れをよくするために、排水溝の整備を行ったり、ブルーベリーの植樹やツツジ等を植える活動を行ってきました。

1999年、以前のメインキャビンから、新しいメインホールを建て替える際にも、いろいろと意見をさせてもいました。柱を大きくすること、ベランダを広くすること、暖炉をつくること等々。

メインホールを新しくしてからも、キャンパーのみならず、多くのファミリーで過ごす、グループで過ごす利用者が増えてくれました。冬場は、暖炉で火を囲み団らんをしている姿をみると嬉しく思います。また、大きな柱のおかげで、九州北部豪雨災害、大型台風、熊本地震を耐えぬき、その後も、内外からの災害ボランティアの拠点となる働きを持つこともできました。

▼これからのY M C A キャンプ100年への期待

いろいろなキャンプ場を見てきましたが、キャビンが古くなり、修理などを重ねていくことがあります。そればすべて、悪い事ではないと感じます。キャンプ場では、少しの不便さを楽しみ、工夫しながら過ごせる力を身に付けていくことができると思います。効率が良い事ばかりを考えるのではなく、無駄といわれることにも大切にする必要があります。

自然の変化に対応できる人。そのような人を育てることができる場所がY M C A のキャンプ場であってほしいと思います。

「Y M C A でキャンプを行ってきたこと、キャンプ場を運営していることが間違いではなかった」と思える100年を迎えてほしいです。

これまでの、キャンプによって与えられてきた自然環境への取り組み、子どもたちを育んできた成果をもう一度、私たち自身で見つめなおし、次世代に繋げていきたいと思っています。



Profile

医療法人仁和会 熊本眼科医院 理事長
熊本YMCA 功労常議員 熊本YMCA 阿蘇運営委員

【文責：熊本YMCA 山田 真二】